



# 国民春闘共闘

第27号

2018年3月26日

国民春闘共闘委員会

〒113-8462 東京都文京区湯島 2-4-4 全労連会館

☎ 03-5842-5621 FAX 03-5842-5622

郵政ユニオン・建交労鉄道

## 郵政・全国 11 拠点、19 職場でストライキに

郵政産業労働者ユニオンは3月20日、春闘回答に抗議するストライキを全国11拠点19職場で行い、68人（うち非正規22人）が参加し、東京の本社前ではスト突入集会を開きました。春闘交渉で日本郵政は、非正規の処遇改善の必要性について「同じ認識だ。これまで以上に踏み込んで取り組む」と考えを示していました。ところが15日に示された最終回答は、裁判で支給が認められた住居手当を廃止するほか、正社員の年末手当も廃止（非正規には正社員の8割水準の年始手当を支給）、病気休暇では月給制と時給制の非正規労働者間に新たな格差を設けています。

### 郵政ユニオン 68人（非正規20人）がストライキに突入！

今春闘で、会社は「均等待遇に踏み込む取り組み」と言いながら、結果的にベアゼロ、処遇改善に前進なしの回答を行いました。

郵政ユニオンは再検討、再回答を会社に強く迫り交渉を重ねてきましたが、回答に前進はなく、ストライキを実施。

中村書記長は「判決を踏まえて交渉してきたが、ふざけた回答だ。労契法20条裁判の判決が骨抜きになる」と怒りをあらわにしました。



日巻委員長は「手当廃止や処遇引き下げなど極めて不当な回答。痛みを社員に押し付けるのでは処遇改善にはならず、責任ある姿勢とはいえない」と批判。日本郵政が2018年3月期の連結純損益を4500億円に上方修正したことに触れ、「ゆうパックは取扱量が対前年度比で25%増。大量のゆうパックを配達したのは、要員不足の中、懸命に働いている正規と非正規の社員だ。郵政で働く全労働者の賃金引き上げと処遇改善の実現を勝ち取るため、全力で闘う」と訴えました。

20日早朝より、局前宣伝、地域行動、ストライキなど全国統一行動を展開し、全労連や全労協、地

域で共闘する仲間の支援を得て、全体で1,000人の仲間が結集して成功しました。

本社前集会には、折からの冷たい雨をつき150人が結集しました。「同一労働・同一賃金」は今や社会的な要請であり、喫緊の課題です。本部は全国でのストライキ成功を背景に、時給・賃金引上げゼロ回答に固執し均等待遇実現に背を向ける会社の姿勢を許さず、最後まで要求の実現に向けてとりくみます。

## 建交労鉄道宮城地方本部 仙台ストライキ集会

JR貨物は、我々が求めている春闘要求に対し、「ベアは実施できない」と不当な考えを示し、14日の回答指定日までに回答がなかったことから、鉄道宮城地本組合員（乗務員）3名が、有額回答を求めて3月15日0時からストライキに突入しました。

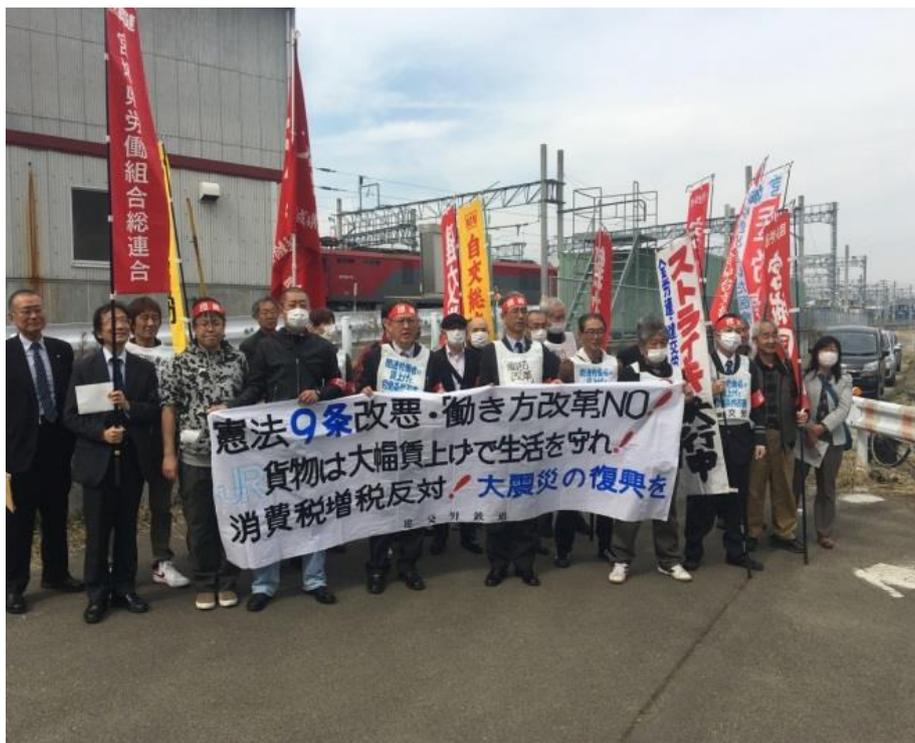
12時15分から、JR貨物仙台総合鉄道部検修庫前の道路でストライキ決起集会を開催。

大江委員長が「JR貨物では、18年連続するベアゼ

ロや一時金の減額により多くの若年労働者が会社を辞めており、新規採用を募っても募集人員に充たず、要員不足が加速している。我々労働者の生活改善のためのも36000円の賃上げは不可欠である。本日は要求獲得のため3名の組合員がストライキを決起してたたかっている」と訴えました。

決起集会には、宮城県労連、交運共闘をはじめ、宮城一般、医労連、宮城国公、宮教組、ソニー労組など多くの支援団体の参加があり、激励の挨拶がありました。ストライキでたたかっている組合員を代表して、松谷雅弘さんが決意表明を行い、「JR貨物で働く労働者とその家族は低賃金で苦しんでいる。大幅賃上げと諸要求獲得のため最後までたたかいぬきます」と強く決意を表明しました。

最後に、阿部副委員長のシュプレヒコールと団結ガンバローで締め、決起集会を終了しました。



**安倍9条改憲・労働法制改悪NO！  
賃上げと安定雇用で地域活性化！**